

# あとれ 特集号

おかげさまで25周年

J A京都やましろは、組合員をはじめとする地域住民のみなさんのおかげをもちまして2020年で合併25周年を迎えることができました。

J Aでは、2016年から食と農を基軸として地域に根ざした協同組合として「持続可能な農業」「豊かで暮らしやすい地域社会」の実現のため、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つを基本目標とする自己改革に取り組んできました。合併25周年を迎え、直近5年間の取り組み内容をご報告いたします。

今後もしっかりと、引き続きよろしくお願いたします。

## 自己改革 その①

### 九条ねぎ一大産地へ

グローバルGAPで

さらにブランド力強化

J Aでは、2014年にネギ部会を設立。ネギ調整包装

## 農業者の所得増大への挑戦

施設やネギカットセンターの新設や首都圏への独自の販路拡大などを通じて九条ねぎの生産振興に取り組んできました。



カット九条ねぎの商品ラインナップ

今年4月、ネギ部会は、グローバルGAP（GAP）の団体認証を取得。同部会の生産工程や労働環境が世界に認められました。これは、部会員が2017年から環境への負

担を軽減した安心して食せる安全で高品質な九条ねぎの生産と農作業の安全、健康的な労働環境の実践・改善が認められたものです。

今回の認証取得により、他産地の青ネギとの差別化を図ることで九条ねぎの販路をさらに拡大できると期待しています。

### カット九条ねぎ好調

#### 加工ライン増設でさらなる産地化へ

J Aが販売する九条ねぎは、消費者からの需要を受けて東京豊洲市場や大手量販店から増産が望まれています。

中でも、カット九条ねぎは、味と品質の良さに加え、J Aが直接加工販売するという安心感から関東地方を中心にイオングループをはじめとする大型量販店からの受注も順調に伸びています。2019年度は、前年の210%にあたる3.1億円の販売高となりました。J Aでは、今後の需要に因應するため、ネギカットセンターの加工ライン増設工事をすすめるとともに、今年度からネギ部会とは別にJ Aを通じて九条ねぎを供給する出荷グループを組織します。

1人でも多くの生産者がJAに結集することで農業者の所得増大と九条ねぎの一大産地化をめざしています。



まだまだ需要が見込めるカット九条ねぎ

### 圧搾菜種油粕

#### 価格引き下げ断行

肥料の予約とりまとめによる仕入れ価格抑制に取り組んでいるほか、農薬の大型規格商品の開発による割安化、生産資材の規格集約による安価提供など仕入機能の強化により生産関連資材の価格引き下げに努めています。

低コスト肥料の「国産化

成14、14、14」に続いて、茶



用いただき好評を得ている太田油脂（株）の「圧搾菜種油粕」を春・秋肥料の予約申込期間に特別価格を設定して安価で提供しています。

統一部会の栽培面積推移

(単位：ha)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
万願寺とうがらし	4.3	5.3	5.3	5.5	5.5
ナス	8.0	8.7	8.7	8.0	8.0
ネギ	42.2	59.0	70.7	88.5	91.4
加工野菜	-	-	1.2	1.1	1.17
特別栽培米	49.4	65.2	101.9	111.9	112.2
花菜	-	-	1.9	3.3	4.7
京たけのこ	-	-	8.4	9.4	9.7
えびいも	-	-	-	4.9	4.9

地域特産物のブランド化で持続可能な農業を

山城地域の生産者を横断的に組織したJA統一部会は、現在8組織が存在し、各農産物の有利販売に取り組んでいます。また、2015年度から九条ねぎやえびいも、京たけのこ、万願寺とうがらし、イチジク、花菜などの山城産農産物を豊洲市場(築地市場)にも出荷。バイヤーから高評価を得ています。



高評価を得る万願寺とうがらし

市町村別特産物生産振興品目

市町村	振興品目
宇治市	トウモロコシ、京白丹波
城陽市	イチジク(雨よけ)
久御山町	ナス、金時人参
八幡市	キュウリ
京田辺市	花菜
井手町	えびいも、富有柿
宇治田原町	キュウリ
精華町	花菜、洛いも
木津川市木津町	花菜
木津川市山城町	金時人参
木津川市加茂町	当尾ごぼう
和束町	花菜
笠置町	花菜
南山城村	原木しいたけ

JAでは、これらの農産物に加えて山城各地の特産物を掘り起こし、「市町村別特産物」としてブランド化に取り組んでいます。初年度の2019年度は、12市町村で13品目(左表)を市町村別特産物生産振興品目に定め、京都府の協力を得ながら栽培体系作成と新たな部会設立など各地区で特産物栽培に取り組んでいます。

この取り組みを通じて家族経営農業や新規就農者をはじめとする栽培者の掘り起こしと販売先の拡大を通じて農家所得の増大と持続可能な山城地域農業の実現をさらにすすめてまいります。



スタンドパックで販売を伸ばす花菜

「特A」をめざす  
特別栽培米

JAでは、2014年度から環境と人に配慮した特別栽培米生産に取り組んでいます。15年度に特別栽培米部会を設立して以降、良食味米生産に取り組んでいます。部会員が生産した特別栽培米は、「やましろの恵」としてJA農産物直売所などで販売し、高い評価を得ています。

一方、京のプレミアム米コンテストで山城産ヒノヒカリが、17年に金賞、18年に最高金賞、19年も金賞を受賞するなど、良食味米生産が成果を出しています。

今後、特別栽培米部会の部会員とともに日本穀物検定協会の食味ランク「特A」取得をめざします。



作業の省力化検討中  
えびいも

JAは、えびいもの栽培面積拡大と新規栽培者の栽培技

術向上に取り組んでいます。2019年度は、えびいも部会員91人(4.9ha)を含む生産者が55tを出荷しました。

また、京都府山城広域振興局と連携した「えびいも王国づくりプロジェクト」では、栽培面積10haをめざすると



地域の食を支える農産物直売所

JA農産物直売所は、8店舗ごとに特色があります。新鮮な地元農産物を販売するほか、女性部食品加工部会の農産加工品を販売するなど、地産地消をすすめています。また、随時開催するイベントでは、地域の皆さんと生産者が交流できる場となっています。



中山間地を  
天王柿産地に

JAは、中山間地域の農所得の安定と耕作放棄地解消、鳥獣被害対策の一環として、JA管内の柿洪製造・加工业者と連携して2014年度から京田辺市や木津川市、和束町などで天王柿(洪柿)の産地化に取り組んでいます。現在42軒で約1000本が栽培されています。

## 年々生産面積を拡大 パイプハウスリース事業

万願寺とうがらしをはじめとするブランド京野菜の生産拡大を支援するため、JAでは2011年からパイプハウスリース事業に取り組んでいます。

毎年パイプハウスを建設し、合計面積8.5haにまで拡大しました。今後も面積拡大を通じて山城地域の園芸産地化と農家経営の安定化に向けた取り組みをすすめています。

## 地域農業を牽引する JA青壮年部

青壮年部は、2020年度で結成20周年を迎えました。

当初171人で設立した青壮年部も20年度には盟友258人に拡大しています。

19年度に山城地域の農業の課題やあり方などを政策にとりまとめ、組織内外に発信する「ポリシーブック2020」を策定し、優良農地の確保と耕作放棄地対策や労働力確保などの7つの課題を掲げて解決に向けた取り組みをすすめています。

## 「抹濃」ブランドで 宇治茶販売拡大を

JAではリーフ茶に加え、2018年から抹茶「抹濃」の販売を開始。やましろ産宇治茶100%を武器にJA独自に販売ルート拡大を進めています。また、協同組合間連携として、18年から京都市大生協や龍谷大学生協などに宇治茶を納入しているほか、今年1月から大手乳業メーカーに抹茶を納入。同メーカーが製造する抹茶アイスクリームが4月から生協で販売が開始されるなど、協同組合間協同を進めています。

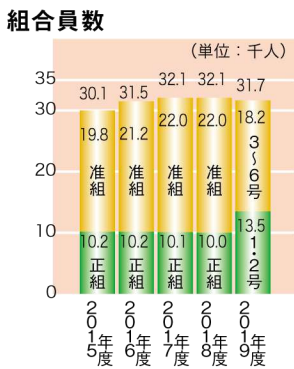
また、今年度には、「抹濃」を使ったレシピコンテストを計画しており、料理やスイーツなどへの抹茶需要の掘り起こしを図ります。



## 自己改革 その③

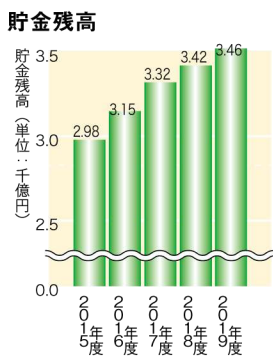
### 組合員の呼称を統一

組合員のJA運営参画とさらなるJA結集をめざすため、2019年3月に正・准組合員の呼称を「組合員」に統一する定款変更を行いました。これにより農業に多様な形で携わる第3号〜第6号組合員（旧准組合員）の資格確認をすすめる、昨年3410人が第1号・第2号組合員（旧正組合員）に資格変更しました。



## 地域活性化への挑戦

住宅ローンなどのニーズに迅速・的確に対応しています。



## くらしを守るJA共済

2018年に山城地域でも大阪北部地震や2度にわたる台風襲来による家屋被害が発生し、建更加入家屋約5千件に対して23.5億円の共済金をお支払いし、復旧にお役立ていただきました。自然災害が頻発する昨今、JA共済はみなさんの備えをお手伝いさせていただきます。

## 年金友の会で ゆうゆう生活

JAでの公的年金受給者の方を対象とした年金友の会は山城地域12市町村で現在1万4517人が加入しています。主な



活動は、旅行やゴルフ、ゲートボール、グラウンドゴルフ、輪投げなどのレクリエーションで無理なく楽しく身体を動かすことで健康の維持と会員の親睦を深めています。特に、グラウンドゴルフや輪投げは、会員のみなさんが気軽に楽しめることから各地区で日頃から練習を重ね、JA京都ややましろ大会の入賞をめぐして腕を磨かれています。

また、2019年度からは、公的年金を未受給の方でも気軽に参加できる「年金友の会クラブ」の活動を各支店で企画していますので、みなさんの参加をお待ちしています。

楽しみながらも点数を競う輪投げ

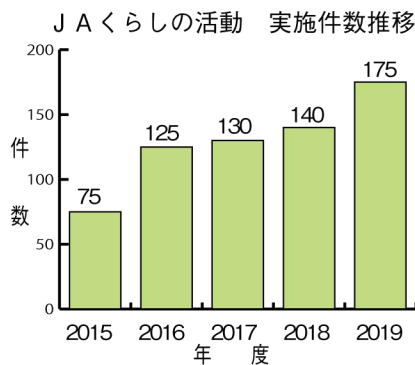
## みんなが集う JAくらしの活動

JA各支店を拠点に地域の皆さんが集う場を提供しようと、2012年からJAくらしの活動を展開しています。

JAが取り組み始めた当初38件だった活動が、農業祭の開催や農産物の収穫体験、料理教室、市民農園などを追うごとに活動内容が充実し、19年度は175件にまで拡大。JAの各支店が組合員や地域住民の皆さんの集う場として定着しています。

今後も魅力的なさまざまな

活動を計画してまいりますので、ぜひ皆さんもご参加ください。



す。

また、食の安全や食品ロスなどの勉強会を開くなど、女性ならではの視点で家族の食と健康を守る取り組みも行っています。

JAでは、山城地域に住む女性を対象とする女性部があり、1561人の部員がそれぞれの地区で手芸や料理教室、フラダンス、大正琴などさまざまな活動を通じて共通の趣味を楽しんでいます。女性部各支部の活動は、年々サークル数が増えています。家の光を女性部活動の教科書と位置づけて購読運動をすすめているほか、手芸や料理などの家の光記事を活用する23グループを含め、現在12支部57サークルが活動しています。



女性部サークル発表会 2019

## 市民農園で 農を楽しむ

2017年に実施した組合員アンケート結果を踏まえ、地域住民に、農業にふれても



宇治田原町支店のお弁当バイキング (2019 JAくらしの活動)

## 住み慣れた地域で いつまでも

協同組合運動の相互扶助精神に基づき、地域住民の皆さんがいつまでも安心して暮らせる山城地域にしようと、京都府内JAで唯一となる介護事業を2000年から展開しています。

助け合い組織「ふれあいの会たんぽぽ」からスタートしたJAの介護事業は、訪問介護事業、居宅介護支援事業に続いて、18年4月にデイサービスセンター・えがの里を開設しました。

らい収穫の喜びを知ってもらおうと、19年10月に「JA京都やましろ市民農園」(城陽市)を開設しました。

JA営農指導員から直接栽培指導を受けられる栽培相談会を毎週開いており、利用者からも好評です。

区画には、まだ少し余裕がありますので、農作業を通じて健康維持と収穫の楽しみを味わいたい方のお申込みをお待ちしています。

【問い合わせ先】城陽支店  
電話番号  
(0774) 53-0050

同センターの昼食は、女性部が提供しており、デイサービス利用者からおいしいと好評を得ています。  
デイサービスのご利用を検討されている方は、ぜひ見学にお越しください。



女性部の手づくり昼食

## あとれ特集号

発行日 2020年6月27日  
発行者 JA京都やましろ  
京田辺市田辺鳥本1-2  
TEL0774-62-1200

# あとこれ 特集号

## J A 京都やましろ自己改革への挑戦

平成30年 4月発行  
京都やましろ農業協同組合

平成28年4月に改正農協法が施行され「農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならぬ」と規定されました。

J A グループは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、「持続可能な農業」及び「豊かでくらしやすい地域社会」を実現するために「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つを基本目標とする自己改革に取り組むことになりました。

当J A は、政府に言われるもなく農業者の所得向上や地域の活性化に取り組んでまいりました。さらに平成29年度には、第7次中期3カ年計画ならびに第2次やましろ農業チャレンジプランを策定し、より一層の自己改革の実現に取り組んでいます。

本紙では、組合員の皆さまに「J A があってよかった! J A が必要だ!」と言って頂けるよう自己改革の取り組みとその成果について経過報告させていただきます。

### 改革 その1 農業者の所得増大への挑戦

#### (1) 農産物のブランド化

ブランド京野菜の目印「京のブランド産品マーク」に加え、山城ブランドの目印として「京やましろ新鮮野菜ロゴマーク」により、山城野菜を消費者にPRしています。

#### (2) 特別栽培米「やましろの恵」誕生

平成27年産米から山城産米の新ブランドとして、特別栽培米「やましろの恵」をエコファーマー認定農家に生産いただき、買い取り販売を行っています。



▲ロゴマークによるPR販売

#### (3) 宇治茶ブランドの強化

平成30年3月に、茶の有機栽培技術マニュアルを策定しました。これを基に、有機栽培の生産技術を確立し有機茶栽培の普及に取り組むをすすめます。

被覆茶園面積の拡大や改植事業に取り組むとともに、荒茶の生産、製造管理行程の宇治茶GAPの普及に取り組んでいます。

また、海外輸出やインバウンド対策に向けて宇治茶のハラル認証を取得し、タイシンガポール、香港など、宇治茶の海外輸出に取り組んでいます。



GAP承認数 平成30年3月末現在(単位:工場)

年度	承認工場数	
	初級	上級
26	101	2
27	55	10
28	6	2
29	23	2

#### (4) 販売チャネルの拡大

九条ねぎ、万願寺とうがらし、京都田辺茄子、花菜、京たけのこ等15品目の首都圏市場への出荷を行い、平成29年度は、1億1千万円を超える販売となりました。また、直接販売でも量販店1社、外食チェーン3社、食品加工業者7社など20社との取引により1億円を販売するなど販売力の強化に取り組んでいます。



▲東京の百貨店で京野菜の販売



▲総菜チェーン店への京野菜販売

#### (5) 買取販売の強化

米の販売では、大手卸売業者との契約において価格交渉を行い、生産者から高値での買取を行っています。

茶の販売では、J A が茶市場で荒茶を買い取り、J A で加工して直売所のほか、デパートや通信販売、ネット販売などを行っています。また、高級ポットリングティーやティーバッグなど商品開発により宇治茶ブランドのPRにも取り組んでいます。

#### (6) 農産物直売所による販売力強化

8店舗の農産物直売所は、小規模農家や定年帰農者など就農の受け皿となっています。また、消費者と生産農家との交流の場として地産地消に貢献しています。

#### (7) 生産資材価格の引き下げ

J A グループの取り組みで品目集約による低コスト肥料の高度化成14-14-14の商品提供を行いました。インターネット販売やホームセンター等の価格を調査し、予約推進の取り組みによる油粕等8品目と殺虫剤等4品目の特別価格を設定しました。

全農と商系の卸売業者5社で品目



#### 販売高推移表

(単位:千円)

種類	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	数量	進捗率	数量	進捗率	数量	進捗率	数量	進捗率	数量	進捗率
米・麦	396,656	100%	288,440	73%	307,204	77%	390,013	98%	542,615	137%
米数量(袋)	46,021	100%	48,215	105%	61,939	135%	67,718	147%	62,972	137%
野菜	2,325,907	100%	2,465,206	106%	2,661,988	114%	2,714,545	117%	2,683,310	115%
万願寺とうがらし	65,729	100%	69,604	106%	99,395	151%	98,057	149%	101,166	154%
ナス	300,437	100%	307,654	102%	289,191	96%	296,154	99%	248,151	83%
ネギ	347,647	100%	398,831	115%	556,817	160%	655,325	189%	687,701	198%
果実・花き・花木	252,313	100%	221,106	88%	217,368	86%	212,968	84%	197,714	78%
茶	3,691,926	100%	3,582,651	97%	4,160,695	113%	4,230,443	115%	4,606,624	125%
牛乳	151,284	100%	135,864	90%	148,169	98%	95,710	63%	0	0%
合計	6,818,091	100%	6,693,269	98%	7,495,427	110%	7,643,679	112%	8,030,265	118%

#### 作物別統一協会一覧

平成30年4月13日末現在

部会名	設立	部会員数
とまと倶楽部	H 7 年 4 月	8
万願寺とうがらし部会	H 24 年 1 月	80
茄子部会	H 25 年 12 月	70
ネギ部会	H 26 年 12 月	24
加工野菜部会	H 28 年 7 月	12
特別栽培米部会	H 28 年 11 月	126
花菜部会	H 28 年 11 月	21
京たけのこ部会	H 28 年 12 月	26
えびいも部会	H 30 年 4 月	90

#### (2) 統一協会の設立

管内全域を対象とした統一協会を立ち上げ、品質の高位安定化や生産者、生産量の拡大など生産振興に取り組んでいます。

#### 地域営農ビジョン策定状況

年度	策定集落数
27	15
28	16
29	14
合計	45



▲地域営農ビジョン策定に向けた集落座談会

### 改革 その2 農業生産拡大への挑戦

#### (1) 地域営農ビジョンの策定

地域農業の将来について、担い手や農地の維持・確保などの問題解決をはかる話し合いをJ A が主体的にすすめています。45地域について、将来農業のビジョンをすすめることが出来ました。

ごとの相見積もりを行い、予約推進における農業43品目の大口利用価格を設定しました。農機事業では、機能を絞った低価格モデル農機(J A オリジナル機)の商品提供を行いました。また、九条ねぎのマルチ栽培(減農薬)を広げるため、価格交渉による黒マルチの安価供給を実施しました。

**(3) パイプハウスリース事業の導入**  
 平成24年から毎年1haのパイプハウスリース事業としてパイプハウスを設置し、生産面積を拡大しました。

JAパイプハウスリース事業導入実績

年度	面積 (ha)
24	0.90
25	1.05
26	1.34
27	1.30
28	1.01
29	1.00
合計	6.60



▲パイプハウスによる万願寺とうがらし栽培

**(4) 生産施設の設置**  
 京野菜、宇治茶の生産関連施設を設置し農作業の省力化と生産面積の拡大に取り組んでいます。平成29年度のネギ調整包装施設での出荷量177t、販売額1億円、茄子選果場での出荷量553t、販売額1億1千5百万円となりました。

**(5) 担い手の育成、支援**  
 TACを中心に担い手への訪問活動を行い、生産指導をはじめ販売、生産資材の提案などに取り組んでいます。各地域においては、青壮年部員を地域のオピニオンリーダーと位置付け、担い手対策、農地対策について主体的な取り組みをすすめています。

**(6) 子会社による担い手支援**  
 (株)ジェイエイやましろファームは、トマトの養液試験栽培・万願寺とうがらしなどの栽培を通じて、就農支援を行っています。

**(7) 農業融資の提供**

担い手農業者(法人含)に、農業に必要な資金の提供を行っています。

農業経営資金融資実績 (単位:件・千円)

年度	新規融資		年度末残高
	件数	融資額	
25	43	124,429	411,193
26	44	123,580	397,022
27	106	320,880	563,866
28	131	496,796	864,260
29	130	466,380	1,092,278



▲抹茶加工施設/H30年4月



▶ネギ調整包装施設/H27年4月(右)  
 ▲ネギカットセンター/H30年2月(上)  
 ▼茄子選果場/H28年5月(左上)  
 ◀和東茶集出荷場/H28年3月(左下)



**改革**  
 地域活性化への挑戦

地域の皆さまの暮らしに密接に関わる各種の事業を通じて、地域の生活インフラ機能の一翼を担い、豊かで暮らしやすい地域社会づくりに取り組んでいます。

**(1) JAくらしの活動の展開**

JAくらしの活動を各支店で実施しています。また、子ども向け食農教室や女性大学、婚活支援、健康セミナー、相続セミナーなどを実施しています。

JAくらしの活動数

年度	活動数
25	36
26	66
27	122
28	125
29	127

**(2) 女性部・年金友の会活動**

地域女性の活躍の場である女性部活動、年金世代の親睦や健康増進をすすめる年金友の会などを老若男女を問わず、全ての地域住民が生き生きと暮らせる地域社会づくりをすすめています。

女性部サークル数

年度	サークル数
27	34
28	50
29	55

**(3) 高齢者福祉活動**

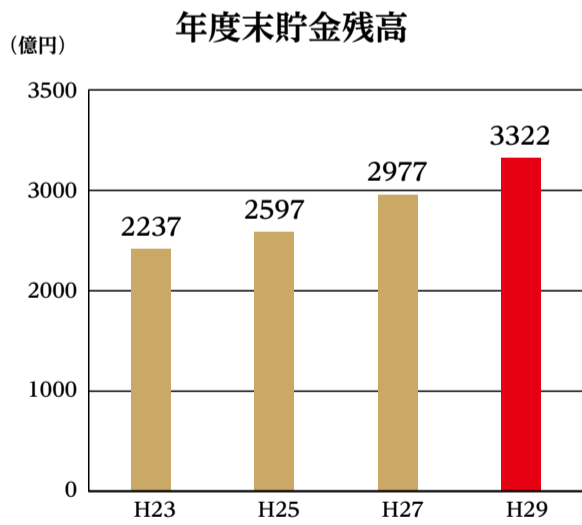
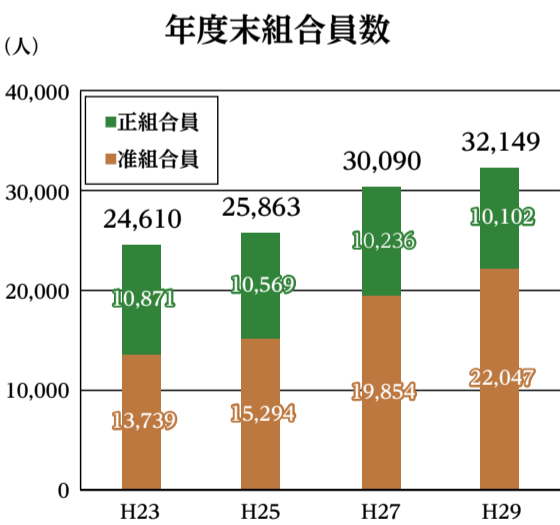
JAは、訪問介護事業、居宅介護支援事業、平成29年には訪問介護サービス(緩和型)をスタートしました。また、平成30年4月に、デイサービスセンター「えがおの里」をオープンしました。

**(4) 将来の資金形成を支援**

特別金利での定期貯金キャンペーンを定期的に実施しています。また、暮らしに必要な様々な資金ニーズに合わせ低金利での融資を提案しています。

**(5) もしもに備えて**

生活における様々なライフイベントや万一の病気、事故への備えとして、JA共済による総合的な保障を提供しています。特に自動車共済では、万一の事故の際の現場急行サービスに加え、平成30年4月から本店に「事故処理センター」を設置しました。



JA京都やましろ えがおの里 デイサービスセンター



▲現場急行サービス・事故処理センターで迅速な事故対応

**組合員アンケート結果報告**

組合員ニーズとJAとのつながり等についてのアンケート調査を平成29年9月に実施しました。調査にご協力いただきました皆さんに感謝申し上げます。結果をご報告いたします。  
 ※( )内は%を表しています。

**① 今後のJA事業利用意向**

今後利用したい事業で正組合員は、貯金、共済、生産資材購入の順、准組合員は、貯金の利用意向が最も高く、直売所での購入、共済の順となっています。

**② JAに期待する活動**

正組合員は園芸塾等の栽培技術講座(24・5)が最多で、続いて高齢者の生きがいづくり活動(24・1)、地域環境を良くする活動(18・1)に期待しています。准組合員は、高齢者の生きがいづくり活動(24・5)、園芸塾等の栽培技術講座(20・1)、子育て世代を中心に料理教室(19・2)に期待が寄せられています。

**③ JAに期待する役割**

正組合員は地域農業振興(67・7)、身近で安心できる金融サービス(43・1)に期待が高く、准組合員は安心できる農産物の提供(70・7)、身近で安心できる金融サービス(48・0)と、ともに身近で安心できる金融機関として期待されています。

**④ JAの広報活動**

正組合員は広報誌「あとれ」を93%の方が読んでいると回答。情報媒体として定着しています。一方、准組合員は、「あとれ」、准組合員向け広報誌「Bookmark JA」の購読率が53%と正組合員と比べて低く、准組合員への情報発信体制が弱い状況です。

こうしたアンケート結果を受け、今年度の事業計画では、園芸塾等の栽培技術講座に取り組むこととしており、地域農業振興をはじめ安心できる農産物提供、金融サービスなど負担に耐える事業を展開してまいります。広報活動では、「あとれ」「Bookmark JA」の充実により必要な情報の提供を行ってまいりますので、今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

対象(無作為抽出):正組合員1,000人・准組合員1,000人  
 回答者数:正組合員599人・准組合員546人(回収率57.3%)